

牧会論

ウェスレー第8回講義

通常(ORDINARY)と特別(EXTRAORDINARY)

- × ウェスレーは基本に忠実であるという意味において彼の様々な牧会原則を徹底的に守りました。しかし、彼は体制を維持する為には用いませんでした。さらに崇高な目的の為に、人々を救い、教育し、宣教へと派遣する目的の為に用いたのです。
- × ウェスレーは国教会の司祭を一つの教会を牧会する**通常(ordinary)**の教職とみなした。
- × メソジストの伝道者を、**特別の(extraordinary)**—任命のもとに働き、それ故に按手を授けたり、聖餐式を執行するという制度的仕事に携わるものではないという。(藤本 384頁)

牧師の質

- × よき理解、健全な判断、理由づけする能力
- × 洞察力
- × 記憶のよさ
- × 牧師としての召命に対する深い理解
- × 聖書の深い知識
- × 聖書の原語の知識の豊富さ
- × 科学、哲学、論理学の知識
- × 教父に関する知識の豊富さ
- × 人々の人格や性格の理解
- × 常識
- × 礼儀正しさと学識の高さ
- × 神と人への愛
- × 個人のホーリネスへの切望
- × 神の恵みに協力しようとする切望

ウェスレー神学に基礎を置く牧会の特色

- × ウェスレーの非常に厳格な個人のホーリネスに対する焦点は、個人を自分のまわりの人々に対して全き愛の代行者とするということです。内的な変容は、もしそれが真実で維持されるとしたら、ウェスレーが「慈愛のわざ」と呼ぶものにつながります。
- × ウェスレー神学の全体性は、人々の人生に真実の愛で触れるということです。

伝道

- × ウェスレーは野外説教をすることにおいて、説教するときに見える神の本当の力を体感した。自らを卑しくすることにおいて、神の恵みを証しする人物と変えられていた。（378頁）
- × 伝道者としてのウェスレーは、実にバイタリティに溢れた人であった。（383頁）

牧会

- × 霊的成長を望んでいた。
- × ウェスレーの教会の教理の中心は、相互養育です。ウェスレーは多くの教区でこれが欠如していることを嘆き、メソジズムは異なるべきであることを勧告しました。

スピリチュアルフォーメーション

- ✦ 靈的に成長していくことはウェスレアン主義の核心です。ウェスレアンの文脈において、仲間のキリスト者と相互に信頼することによりホーリネスと愛において成長することを付け加えることができます。靈的に形成されていくためには私たちが死ぬまで続く聖化の過程です。これがウェスレーの目標でした。そしてそこから彼らが既に経験した聖化の愛を生きるのです。ウェスレーにとって教会がなしではこれは困難なことでした。

キリスト教教育

- × ウェスレーは教育はソサエティや組会でおこると期待しました。教育はメソジズムの最前線で為され、実践的な意味合いを持つものです。知識を持ちつつ行う献身的な生活はキリスト者の生活にとって重要なものです。

日誌について

個人的な省察と統合のためのツール

- × **Diary** その日起こった出来事
- × **Journal** 起こった出来事の感想

ウェスレーから学べること

- × ①一事に励む
- × ②勤勉、自己否定、時間の節約
- × ③とにかくやってみる。冒険の姿勢
- × 経験の神学 実験の神学
- × experimental theology
- × 野外説教、女性の登用
- ×